

熊本県立荒尾支援学校進路便り NO. 7

わーく&らifu

平成28年11月1日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

- ★連載「キャリア教育基礎講座③」～はたらく準備。いつからやるの？今でしょ！～
- ★トピック「職員進路研修」～卒業生の進路先から学ぶ～
- ★トピック「お役に立つことって気持ちいい！（高等部作業総合サービス班）」

連載「キャリア教育基礎講座③」

～はたらく準備。いつからやるの？今でしょ！～

この連載では第一回目に「はたらく」ことの深い意味について、第二回目に「家庭教育の果たす役割」について考えてきました。総合すると「はたらく」には、子どもにとって長い時間を過ごす「安心感」のある家庭の中で、子どもさんが小さいうちから年齢や発達段階に応じたたくさんの役割を担い、その結果、家族からしっかり認めほめられることで、役に立つ喜びを積み重ねることが欠かせないことを確認しました。このことは「勤労観」に直結しますし、自分がかげがえのない大切な存在であることを実感する「自己有用感」も育ちます。家庭は子どものこころと成長の基地なのです。

今回は、「はたらく」大人に向けて、「いつ」から「どのような」準備をすればよいのかを考えてみましょう。

「いつから？」～取り組みはじめのタイミングは？～



「はたらく」生活に向けた準備は「作業学習」がはじまる中学生ぐらいからだと考えられがちですが、先に述べた内容からすると、早くから始めるに越したことはありません。たとえば、大人になってから自転車乗りを練習すると、なかなかうまくいかないように、子どもの発達から考えると、手先を上手に使うお料理やお掃除などの生活技能を習得するには、適切なタイミングがあると考えられます。

笹 一誠さん（NPO法人PDDサポートセンター グリーンフォーレスト理事長）は著書に、家事等に取り組むはじめる適切なタイミングを、小学生の中学年（10才）くらいからと述べておられます。この年齢でたくさんのことをできるはずはありませんが、続けることで、相手のことを見てまねをする学習の基本姿勢が育ちますし、早く始めれば20才までに身の回りのことがひととおりできるようになるかもしれませんね。これも素晴らしいことです。また、最近の子どもたちの傾向として、行動としてはできる力はあるながら、続けることや、自分のやりたいことを多少我慢してでも家族と一緒に行動する・家事をこなす耐性（我慢強さ・こらえ性）が育っていない点が挙げられます。

将来、社会の中ではたらくためには、このストレスやプレッシャーにも負けない「耐性」が重要な力です。

毎日の家庭生活の中で繰り返し、自然に自分のやるべき事をやり通していく経験もまた、はたらく準備として重要です。

「どのような？」～基礎作りをしっかりと～

運動技術の習得には、順番があります。たとえば、ピッチャーが速球を投げるためには、下半身や体幹を鍛え、体の基礎をしっかりと作ることが欠かせません。

同じように、人の体やこころの発達にも育てるべき順番と基礎づくりが重要です。

「はたらく」生活には、右図のような基礎部分の力が重要とされています。先ほどの我慢強さと同様に、はたらく生活を長く続けていくためには、「健康管理」や「身の回りの自立」「規則正しい生活」「人とかかわり全般」が重要な基礎なのです。

たとえば、食事をバランスよく三食とることで、疲労回復と栄養補給につながり、翌日の力につながります。また、一日や二日は頑張っても、夜更かし等で十分な睡眠がとれていないと長続きしませんね。実際本校の卒業生が就労後離職した原因の多くには、生活の乱れからくる意欲の低下があります。

つまり、はたらく生活の基礎は「暮らしの安定と充実にあり。」と言えます。

お子さんが小さいうちから、自分の身の回りのことで自立してできることを、少しずつ増やしていくように心がけましょう。「凡事徹底」の精神が肝要です。

さらに、学校生活が終わった後の社会を意識しておくことも重要です。支援学校やご家庭では許容されることでも、社会では通用しないことは多いと思います。暮らしにも「ルール」があり、徹底して守るべき規範が存在することも、毎日の生活を通して教えていきましょう。

キャリア発達をふまえた基礎づくり



★トピック 平成28年度 職員進路研修



荒尾支援学校では、卒業生支援に力を入れています。学校生活が終わった後の社会生活は長く、時として厳しいものです。また、学校時代に比べ気軽に相談する人や機会も減り、卒業生・保護者の困り感が増大する傾向にあるようです。

本校の教育指針のひとつに「つなぐ」教育を掲げています。卒業生と進路先の間をつなぐのはもちろん、生活状況や困り感を知り、必要な関係機関につなぐことも、卒業後の支援に重要なことと考えています。（裏面へ続く）

また、卒業生の実態や進路先での様子は、日頃の教育を振り返る機会として貴重であり、毎年夏休みの期間を活用した職員進路研修を実施しています。今年は過去3年間の卒業生の進路先を中心に10の事業所・施設にご協力頂きました。

日頃は授業のため施設や企業の実状を見る機会のない担任の先生方も大勢参加し、50名以上の研修となりました。

事前の希望調査を基に5グループに分かれ、それぞれ2ヶ所ずつ研修に行きました。

<研修先>

事業所・施設名	類型
がまだすサポート	就労継続支援A型事業
自立支援センターひまわりの里	就労移行支援事業 就労継続支援B型事業 生活介護
生活支援センターきらきら	生活介護
就労支援センターほし	就労移行支援事業 就労継続支援B型事業
サポートセンター SUN☆フラワー	生活介護 就労継続支援B型事業
びえず南	生活介護 就労継続支援B型事業
通所施設なかま	自立訓練 就労移行支援事業 就労継続支援B型事業 生活介護
就労支援センターワンピース	就労継続支援A型事業 就労移行支援事業
就労支援センター風工房	就労移行支援事業 就労継続支援B型事業
有限会社ふくやまペーカリー	一般就労



◆研修を終えて◆

研修を終えて実施したアンケートでは、「今回の研修での学びを生徒の就労に関する情報として、保護者への情報提供、進路指導、支援会議で生かせる」、「将来の子どもたちの姿を具体的にイメージできた。必要な力、今するべきことについて考えるきっかけになった」等、今後の支援に活かしていきたいという多くの意見を頂きました。「研修は意義のあるものでしたか？」という問いや「研修の内容は後後に活かせるのですか？」という問いに対して、すべての職員が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答する等、有意義な研修となりました。また、今後得たい情報として、「一般就労を目指す生徒に企業が求めている力」や「高等部での取り組み（進路指導、実習先、進路先、仕事内容、卒業後の追指導）」、「重複障がい者が利用できる日中一時支援事業や短期入所について」等の意見も頂きました。

今後、進路だより等でお伝えしていきたいと思います。

★トピック お役に立つことって気持ちいい！ 高等部作業 総合サービス班の活躍

高等部では昨年度より作業学習に清掃作業を取り入れ、本年度は総合サービス班として、清掃技術の習得をはじめ他のクラフト作業班への協力や校内の美化活動にも取り組む機動部隊として活躍しています。

今回のARA・SHIまつりはご存じの通り、あいにくの天候のため、駐車場になった本校運動場・小袋作業所運動場はひどい轍でぐちゃぐちゃになりました。

そこで活躍したのが高等部総合サービス班の3年生を中心にしたメンバーです。

はたらくことの重要な意味は「役に立つ」ことであることは繰り返しお伝えしていますが、田んぼのように足を取られる地面を踏ん張り、並大抵でない努力をもってきれいにしてくれました。頼りになる最上級生たち。高等部総合サービス班のみなさん。ありがとうございました！



「悪戦苦闘の水たまり」



「一列に並んで息を合わせて」

<編集後記>

高等部3年生は、進路決定に向けた三者面談の真っ最中です。多くの実習と、実習後の振り返りと反省、反省内容のクラスメイトとの共有を繰り返しながら、皆たくましく成長していることを実感します。進路をつかむのは「団体戦」3年生は一致団結して、最高のムードを醸成しています！がんばれ3年生！！

●お願い●

4月よりリニューアルを図ってお届けしてきた進路便り「わーく&らいふ」についてのご感想をお聞かせください。
別紙アンケートに保護者の皆様のお考え、ご意見をお書きの上、連絡帳経由で進路指導部までお届けください。
皆様の声が、後期の紙面に反映できるよう検討して参りたいと思います。

ご協力よろしくお願いいたします。

